

JAPAN WATCH

スペシャル・レポート 日本株スペシャルレポート

2007年8月13日

日本株式市場の調整について

7月下旬からの日本株市場は不安定な展開が続いておりますので、最近の日本株市場についてご報告いたします。

主要株式指数の騰落率

騰落率(現地通貨ベース)	2007/7/26~ 2007/8/10	2007/8/10
日経平均株価	5.30%	2.37%
東証株価指数(TOPIX)(配当込)	5.94%	2.96%
東証2部株価指数	6.96%	2.50%
JASDAQインデックス	3.11%	0.74%
東証マザーズ指数	10.51%	1.84%
大証ヘラクレス指数	9.61%	2.10%
米国:S&P500種指数	1.96%	0.04%
欧州:MSCI欧州株価指数	2.80%	2.96%
アジア(除く日本):MSCI AC7アーク・イースト・フリー(除く日本)	7.10%	3.22%

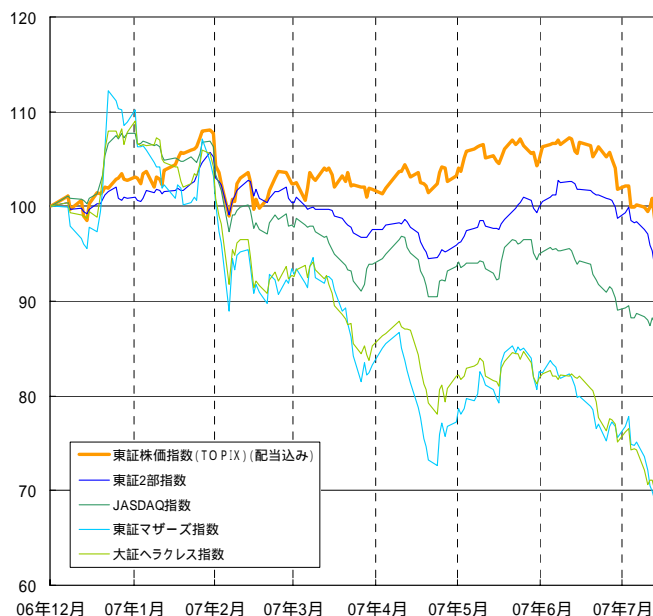
注:Bloombergよりフィデリティ投信作成 期間:2007年7月26日~2007年8月10日

米ドルの騰落率(対円レート)

通貨	2007/07/26~ 2007/08/10	2007/8/10
米ドル	1.28%	0.73%

注:RIMESよりフィデリティ投信作成 期間:2007年7月26日~2007年8月10日

日本株市場の推移



注:Bloombergよりフィデリティ投信作成

期間:2006年12月末~2007年8月10日 2006年12月末を100として指数化。

データは記載時点のものであり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、ファンドの推奨(有価証券の勧誘)を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。上記情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。また当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、あくまで参考として申し述べたものであり、その銘柄または企業の株式等の売買を推奨するものではありません。またデータは記載時点のものであり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。I 070810-12

株式市場動向

8月10日の日本株式市場は、日経平均株価が前日比406円51銭(2.37%)安の16,764円9銭となりました。

また、東証株価指数(TOPIX)も前日比49.88ポイント(2.96%)安の1633.93と下落しました。特に、海運・商社株など、このところ上昇が目立っていた銘柄が大幅に下落しました。

株価下落の背景

7月下旬から、米国における信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)の信用リスク懸念が広がっていたことに加え、為替も円高・ドル安に振れたことなどが嫌気され、日本株式市場は不安定な展開が続いていました。直近の8月10日の日本株式市場の下落に関しては、主に以下の要因が考えられます。

欧米の株式市場下落による投資家心理の低迷

欧州の投資ファンドによるサブプライムローン関連投資の損失拡大などにより投資家のリスク回避行動が広がり、9日の欧州株は大幅に下落しました。また、米国大手投資銀行でサブプライムローンに関連した損失が新たに発生したとの見方が広がり、米国株も下落しました。

円高・ドル安

ここ最近の外国為替市場での円高・ドル安傾向も投資家心理にマイナスの影響を与えたものと思われます。

今後の動向

今回の株価調整は、前述のように海外の株価調整が主な背景であると考えられます。国内景気は拡大を続けており、企業業績も2008年3月期決算で戦後最長となる6期連続の経常増益が予想されるなど引き続き堅調です。

サブプライムローン問題の動向やその影響など、今後の動向について見極める必要があるものの、中長期の日本株式市場に対する前向きな材料に変化があったわけではなく、市場を取り巻く環境は良好であると思われます。

調整局面こそ長期成長力の見込める市場への投資機会であると考えます。